

第11回
自分のカラダは畑。
健康診断で畑の土づくりをしましょう。
きっときれいな花が咲きますよ。

震災から3年たった今でも、高血圧や糖尿病といった慢性疾患で体調を崩す避難生活者は後を絶たない。「地域の人たちの健康管理を支援することで、3・11後の復旧、復興の一助になれば……」。長年、消化器外科のエキスパートとして活躍してこられた佐々木先生は、現在みやぎ健診プラザの所長として、地域の健康を見守っている。

Photo: Miki Fukano Design: Takayoshi Ogura

聞き手・女優
紺野美沙子さん
みやぎ健診プラザ
所長 佐々木 巖氏



紺野 先生はもともと消化器外科がご専門だったとお聞きしましたが……。

佐々木 東北大医学部で胃ガンや大腸ガン、難病である炎症性腸疾患や潰瘍性大腸炎、クローン病、そういった外科治療を専門にやってきました。

紺野 外科手術の最前線でチームを率いてらした先生が、今度は検診する、病気を発見する、予防に努める、そういう側に回られたわけですね。でも、そのきっかけとはどういうことだったんでしょうか？

佐々木 大病院にいらるときに、地域医療連携センターを立ち上げました。大学と他の診療所病院との横断的な連携をつくらうということ、二年かけてMSW（メディカル・ソーシャル・ワーカー）や医師、看護師と一緒に、宮城県内のいろいろな施設を八十カ所くらい見てまわりました。どこに、どんな先

生やスタッフがいて、どのような診療をしているのか、自分たちの目で確かめようとした。

紺野 手術室にこもりつきりというわけではなく、外に出ていろいろな先生方や患者さんたちに接しておられたんですね。

佐々木 そうです。宮城県内はほぼくまなく歩き回りました。そこで感じたのは、やはり健診の大切さでした。一人の患者さんの手術をするときには、千人近い人の健診が背景にあつて、われわれは最後の砦として手術を担当しているんだという意識は前からありました。

で、震災からちょうど一年たつて、大学を定年で辞めるタイミングで、新設の健診施設でやってみないかという話があったんです。地域の復旧・復興のためには、住民とそこで働く人の健康管理が基本ですからね。健康管理を支援することで、復旧・復興の一助になればという思い

で所長を引き受けました。

紺野 みやぎ健診プラザの規模はどのくらいですか？

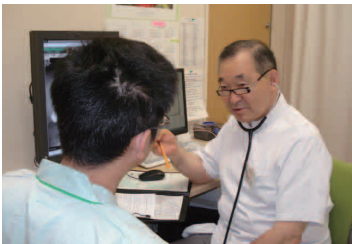
佐々木 医師、看護師、検査技師、事務方をあわせると、五十名ぐらいですか。医師が常勤、非常勤を含めて十五人ぐらいになると思います。今年で開設から三年目を迎えますが、この二年間で四万人以上の人を検診することができました。健診を受けるに來られる方には、自分自身を畑だと思つて、畑の土づくりをするんですよと話します。そうすればきれいな花を咲かすことができますよ。

紺野 肥料や水をやりすぎると、

せっかくいいものをもつていても、きれいな花は咲かないでしょうからね。

佐々木 健診結果を見ると、だいたい五十代半ば、早い人で五十ちよつと前くらいから、いろいろなデータが悪くなつてきます。だからこそ、土を耕して、雑草を取つて、日当たりをよくして、根っこが伸びたら伸びただけ栄養を追加してというような管理が必要になつてくるんです。**紺野** 自己管理で環境を整える必要があるんですね。

佐々木 そうです。消化器外科をやつていましたから、胃や大腸を切除した患者さんの術後の



上：仙台市若林区にあるみやぎ健診プラザ。今年で開設から3年目を迎える。下：健診の診察の様子。企業の定期健診や生活習慣病予防健診、人間ドックも受け入れ、地域の方々の健康管理を行っている。



今、医師としてのあなたを 日本でいちばん求めているのは、 東北です。

たとえ病棟があっても、立派な医療設備があっても、
清潔なベッドがあっても、
お医者さんがいなければ、そこは病院とは言えない。
いま、東北が直面しているのは、その現実です。
そして、東北の医師が不足しているという現実は、
東北以外のお医者さんにしか救えない。そう思うのです。
この誌面を借りて、医師であるあなたにお願いがあります。
移り住んで来てほしいとは申しません。
週に2、3日、一年にすれば100日程度でもいい。
あなたの時間を分けていただけないでしょうか。
東北の力になっていただけないでしょうか。
人の幸せは、健康があってこそ生れるもの。
そのことを誰よりも知るあなたの力を、
今、誰よりも求めている人々が東北にいます。



東北医療福祉事業協同組合 エスジーグループ どこよりも、 いのちを愛する東北へ。

東北エリアにおいて医療・介護などの豊富な経験をもとに経営環境向上のための運営支援、
また、人材確保や教育までトータルにサポートします。

■上記広告に関するお問い合わせは

E-mail: doctor@sg-kumiai.or.jp Tel: 0800-800-5533 (通話料無料)

受付時間 平日9時~17時(土日祝日は除く)

東北医療福祉事業協同組合 仙台事務所
〒980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋 1-1-17 仙台ビルディング駅前館6階

URL <http://www.sg-kumiai.or.jp/>

検索キーワード **いのちを愛する東北**



佐々木 巖

Iwao Sasaki

昭和22年、宮城県生まれ。昭和47年東北大学医学部卒業。昭和49年東北大学医学部第1外科入局。平成5年東北大学医学部第1外科助教授。平成11年東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座生体調節外科学分野教授。平成16年東北大学病院地域医療連携センター長。平成24年みやぎ健診プラザ所長に就任。

QOL(クオリティ・オブ・ライフ)をどう高めるか苦心してきましたんですが、ゲーデニングと同じで管理がよければ、すくすくと枝葉を伸ばしていくように回復していく方が多いのです。講演のとき、最後に盆栽のスライドを出すんですよ。その辺の木はだいたい百年か二百年なんです。盆栽は何年くらいもつと思いますか？

紺野 もつともつんですか？

佐々木 五百年とか七百年。

紺野 えーっ、すごい。土なんかほんの少ししかないでしょう。**佐々木** だから管理次第なんです。実際の患者さんのなかにはガンになったり、いろんな難病になったりして、天寿を全うで

きない方もおられますけど、多くの人は環境を整えてあげるところで見事な花を咲かせるんです。いま日本全国の病院でNST(ニュートリション・サポート・チーム)という栄養サポートの取り組みが行われています。栄養状態の悪い患者さんを一生懸命手術しても、回復が遅い。そこで、患者さんのもっている環境の一つとして、栄養状態を改善して、治癒を促進させようというものです。それも一人が抱え込むのではなくて、病院内のいろいろな職種の人たち、たとえばMSWの人とか、管理栄養士さん、リハビリの療法士さん、場合によっては歯学部の人たち、そういう人たちが少し

紺野美沙子

Misako Konno

昭和55年、NHK連続テレビ小説『虹を織る』でヒロインを演じる。その後、女優として活躍するかわら、国連開発計画親善大使に任命され、国際協力の分野でも活躍している。平成22年から「紺野美沙子の朗読座」を主宰。

ずつ専門知識を持ち寄って、一人の患者さんのために病院全体でベストを尽くそうというシステムです。これを英語で「ポトラック・パーティー」というんです。**紺野** 持ち寄りパーティーですね。主婦にはけっこうおなじみかも。「じゃあ、きょうは持ち寄りで見たいな感じですよ。やりやすから**佐々木** 今回の「東北の医療はいま」でも、全国の先生方に短期間でもいいから、自分の専門性を活かして、東北の地域医療の支援をしてほしいという呼びかけをしているでしょう。それが「ポトラック・パーティー」なんです。

上げていくんですね。**佐々木** アメリカの偉大な生理学者ウォルター・B・キャンノンが命名した「ホメオスタシス」という概念があるんです。日本語では「恒常性の維持」というんです。地球環境もふくめ、あらゆる生体には、自分の恒常性を維持する、常にあるべき状態に戻そうとする仕組みが具わっているというんです。国や行政に頼るだけでなく、一人一人が自分出来ることをがんばってやり続けていけば、東北は必ずよみがえれると思います。**紺野** わたしたちはそれを支援していかねばいけません。きょうはありがとうございます。

